

八ヶ岳（硫黄岳）山行報告

(山 域)：八ヶ岳連峰（硫黄岳）

(コース)：美濃戸口⇄赤岳鉱泉（泊）⇄硫黄岳

(日 時)：平成30年12月22日（土：泊）～23日（日）

(天 候)：22日 曇り～一時小雨（曇）～一時晴れ ・ 23日 曇り

(参加者)：CL 田中（記録）・会員外2名（県連：教遭委員H氏・T氏）

(山行タイム)：

22日) 美濃戸口 7：10 発●赤岳鉱泉 10：40 着 11：18 発●硫黄岳山頂 13：40 着 13:50 発
●赤岳鉱泉 15：00 着（泊）

23日) 赤岳鉱泉 7：25 発●美濃戸口 10：23 着

(山行報告)：

22日) 前夜発にて深夜に美濃戸口に到着し、快適な車内仮眠の後に身支度をし出発をする。雪は少なく堰堤広場を過ぎたあたりから雪道となる。

赤岳鉱泉に着いてから同行の2名は不要荷物を小屋に預け、私は足に負荷を掛けるため全てを背負い硫黄岳を目指してアタック登山を開始する。

登行の途中は曇交じりの中を登るが、赤岩の頭付近に着くと風は強まるが、雲が切れ出だし遠く北ア・中央ア・南ア・御岳・乗鞍を望み、目前に八ヶ岳の峰々が大きく雲間に姿を現し、皆は予想を反して見えた光景に歓喜の声を出していた。

山頂では写真撮影の後に今宵の宿での御馳走と美酒を思い浮かべ早々に下山にかかる。

小屋の夕食はしゃぶしゃぶと焼き魚他とお酒で美味しく堪能させていただいた。

ちょうど県連) 岳樺クラブの仲間もテントで入山して居て彼らのテントでも楽しく山の話に盛り上がった。

小屋での夕食時は同じ県連) 教遭委員でもある国際看護師（兼山岳ガイド）のK女史が、この連休中は赤岳鉱泉に入り低体温症と凍傷のお話を、泊りのお客さんに講話をしていた。



硫黄岳直下の岩場地帯を行く。





上) 硫黄岳山頂にて H 氏・T 氏と
左) 講話中の国際看護師 (兼山岳
ガイド) の K 女史
下) 硫黄岳山頂からの景色と赤岳
鉱泉にて下山前の私 (田中)

23 日) 同行の H さんの都合で朝より下山 (直帰) のため、ゆったり朝食を頂き、午前中早々の登山口へ下山となった。

赤岳山荘で入浴の後に往路を帰途につき、15 時頃には自宅に帰着いた。

